

第1号議案 平成20年度事業報告及び決算報告承認の件

I. 平成20年度事業報告

平成20年度事業計画に従い、皆様のご支援・ご協力のもと、公益法人として、これまで以上に社会に役に立つサービスが提供できる学会に発展させるべく、講演会・会誌出版・シンポジウム・セミナー・キャンパスビジット等を実施しました。推進してきたWEBを活用した学術講演会の運営、会誌投稿・査読システムもほぼ完成し、着実に成果を上げてきております。また、一層の国際化を進めるべく、海外関連学会との関係を拡大・強固にするとともに、会誌の共同出版も継続いたしました。

さらに、当学会が平成20年に創立60周年を迎えるに当たり、これも皆様の多大なご支援・ご協力をいただき、平成20年10月21日～23日に東京都江戸川区のタワーホール船堀において創立60周年記念行事を盛大に執り行うことができました。ここに改めてお礼を申し上げます。

併せて、平成18年度から計画していたニュースレターについても「物理探査ニュース」として発刊できました。

また、平成20年12月1日から施行された新公益法人制度に向けて、社団法人である当学会も公益社団法人への移行を目指し準備を進めてきております。

以下、平成20年度の活動状況の詳細についてご報告いたします。

1. 学会事業活動

[1] 研究開発奨励促進事業

物理探査の学理及びその応用に係る技術の更なる進歩・発展を奨励、促進すると共に関係する技術者の資質の向上を図るため、研究開発成果に係る以下の事業を実施した。

(1) 研究開発成果に係る発表会

① 第118回学術講演会

開催日 平成20年5月13日(火)～5月15日(木)

開催場所 早稲田大学(東京)

特別講演 主題を「深海と微小領域の計測フロンティア」とした以下の講演2件

- ・「海中ロボットによる精密探査技術」 月岡 哲 (海洋研究開発機構海洋工学センター)
- ・「構造材料の強度保証のための超音波探傷法」

三原 毅 (富山大学大学院理工学研究部教授)

一般講演：口頭発表68題 ポスター発表9題

参加者 269名

② 第119回学術講演会

開催日 平成20年10月21日(火)～10月23日(木)

開催場所 タワーホール船堀 (東京)

創立60周年記念行事と併催、ポスターセッションのみとした。

一般講演：ポスター発表44題

(2) 会誌の発刊

平成 20 年度は、学会誌「物理探査」Vol.61,No.1～No.6 の 6 冊を発行した。そのうち Vol.61,No.1 は豪州物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会 (KSEG) との共同出版である。学会誌の内容改革については継続するとともに、論文集原稿の電子投稿、処理、並びに印刷所への電子入稿等を可能にし、それによって、編集等の作業が大幅に削減され、学会の財政健全に大きく貢献している。

また、平成 19 年度から開始した会誌の J-Stage における公開も順調に進んでおり Vol.58,NO.1～6 及び Vol.59,NO.2～4 まで公開済みである。

(3) 調査、資料収集に係る事業

調査、資料収集に係る事業として、以下の業務を受託し、実施した。

- ・ 件名「物理探査活動データベースにかかるアンケート調査並びにデータ整理作業」に係る業務を（独）産業技術総合研究所から受託、実施した。

[2] 探査技術の普及促進事業

物理探査の学理及びその応用に係る技術の普及を促進すると共に、関係する技術者の資質の向上を図るため、以下のセミナー、キャンパスビジット、講演会、及び研究委員会活動を行った。

併せて、関連学協会と講演会等で互いに後援・協賛を行うとともに、技術士継続教育について生涯学習支援システムの共同運営を継続した。

また、当学会が平成 20 年に創立 60 周年を迎えるに当たり、それを記念して盛大にシンポジウムを開催した。

① 物理探査セミナー

開催日 平成 20 年 6 月 24 日（火）～6 月 26 日（木）

開催場所 産総研臨海副都心センター（東京）

参加者 74 名

② ワンデーセミナー

開催日 平成 21 年 1 月 30 日（金）

開催場所 産総研臨海副都心センター（東京）

テーマ 「地下水と物理探査」

参加者 40 名

③ キャンパスビジット

開催日 平成 20 年 12 月 22 日（月）

開催場所 千葉大学理学部地球科学科

テーマ 「地球物理・資源開発に係わる物理探査」

参加者 43 名

④ 研究委員会活動

- ・ 防災に関する物理探査手法検討委員会

関西地区を中心に物理探査をより多くの技術者に普及させるために、防災に関する最新の情報、物理探査の最新技術などの広範囲の話題を取り上げ、物理探査技術の向上を図る検討委員会を立ち上げ、平成 20 年度は以下の講演会を開催した。

開催日 平成 21 年 3 月 10 日(火)

開催場所 大阪産業創造館

テーマ 「防災環境と物理探査」

参加者 76 名

⑤ 関連学協会との連携・協力

・国内関連学協会

平成 17 年に加盟した日本地球惑星科学連合の平成 20 年度の大会では、当学会に関連したセッションが開催された。その他、(社)資源・素材学会、(社)日本リモートセンシング学会、日本地熱学会、(社)日本地震学会、日本応用地質学会、(社)地盤工学会、計測自動制御学会、石油技術協会等、関係の深い学協会と講演会等で互いに後援・協賛を行った。

・海外関連学会

下記の海外関連学会の講演会・年次総会に参加し、国際交流を深めると共に国際レベルの物理探査技術を会誌、HP 等を通じて紹介した。

欧州物理探査学会(EAGE) (6月9日～12日)

米国物理探査学会(SEG) (11月9日～14日)

環境土木物理探査学会(EEGS) (4月6日～10日)

豪州物理探査学会(ASEG) (2月22日～25日)

韓国物理探査学会(KSEG) (9月25日～26日)

ベトナム物理探査学会(VAG) (11月7日)

・SEG DISC の開催支援

海外の関連学会 SEG が主催し、日本国内で実施する物理探査技術の普及・啓蒙活動(DISC)に対して、会場の準備、参加者の募集の支援等を行った。

開催日 平成 20 年 5 月 16 日 (金)

開催場所 産総研臨海副都心センター(東京)

参加者 55 名

⑥ 継続教育活動

平成 20 年度は、事業委員会が中心になって技術士継続教育について、関係 7 学協会と連携して生涯学習支援システムの共同運営を継続した。

⑦ 創立 60 周年記念行事

参加者総数 391 名

・記念シンポジウム

開催日 平成 20 年 10 月 21 日(火)～10 月 23 日(木)

開催場所 タワーホール船堀 (東京)

テーマ 「社会に貢献する物理探査」

10 セッション、講演 55 件

・創立 60 周年記念式典 (記念講演、表彰)

開催日 平成 20 年 10 月 22 日(水)

開催場所 タワーホール船堀 (東京)

記念講演 : 2 件

「探査型ロボットの造形」

河口洋一郎 (東京大学教授、アーティスト)

「21 世紀は資源争奪の時代 -持続可能・地方分散型社会構築に向けて-」

芦田 讓 (京都大学名誉教授、EEFA 理事長)

・学生参加イベント

「アイデアコンペティション」(応募件数 11 件、10 チーム、17 名)

「チャレンジジオクイズ」(応募者 24 名)

・記念出版物の制作

創立 60 周年を記念して、以下の記念出版物を制作、頒布した。

最新の物理探査適用事例集 冊子・CD

新版物理探査適用の手引きー土木物理探査マニュアル 2008ー 冊子・CD

会誌「物理探査」 DVD (第 1 巻～第 60 巻)

学術講演会論文集 DVD (第 43 回～第 118 回)

国際シンポジウム論文集 DVD (第 1 回～第 8 回)

図解物理探査 e-Book CD

[3] 広報活動

物理探査技術の広く一般社会への普及、啓蒙等を行うため、以下の広報に係る活動を実施した。

① 物理探査ニュースの発刊

平成 18 年度から計画していたニュースレターについて、「物理探査ニュース」として平成 20 年 1 月に創刊号を発刊した。以降、年 4 回の発刊を目指す。

② 技術資料等の頒布

既存の以下の①～④の技術資料等の出版物に加え、創立 60 周年を記念して制作した、⑤～⑩の記念出版物を以下の通り頒布した。

① 物理探査ハンドブック	64 冊
② 物理探査適用の手引き(特に土木分野への利用)	10 冊
③ 物理探査適用の手引き(英文)	15 冊
④ 最新の物理探査適用事例集 冊子・CD	38 冊
⑤ 新版物理探査適用の手引き 冊子・CD	121 冊
⑥ 会誌「物理探査」 DVD (第 1 巻～第 60 巻)	26 巻
⑦ 学術講演会論文集 DVD (第 43 回～第 118 回)	31 巻
⑧ 国際シンポジウム論文集 DVD (第 1 回～第 8 回)	26 巻
⑨ 図解物理探査 CD	27 巻

③ WEB の更新、維持管理

学会 HP を更に見易く、かつ親しみやすいものにリニューアルした。

[4] 研究業績等の表彰

平成 20 年度は、通常総会及び創立 60 周年記念式典において、以下の表彰を行った。

① 名誉会員

平成 20 年度総会において齋藤正徳氏が名誉会員に推薦された。

② 物理探査学会賞

平成 20 年度総会において物理探査学会論文賞 2 件、学会奨励賞 1 件を表彰した。

・物理探査学会論文賞

受賞者 山中浩明、山田伸之

対象論文 山中浩明、山田伸之「強震動評価のための関東平野の 3 次元 S 波速度構造モデルの構築」第 59 巻 6 号(2006) pp.549-560

受賞者 黒田清一郎、奥山武彦、齋藤広隆、金 喜俊、竹内睦雄

対象論文 黒田清一郎、奥山武彦、斎藤広隆、金 喜俊、竹内睦雄「繰り返し孔井間
地中レーダ探査による不飽和帯涵養過程の定量的評価」第 60 巻 6 号
(2007) pp.467-476

・物理探査学会奨励賞

受賞者 尾西恭亮、石川慶彦

対象論文 尾西恭亮、石川慶彦「気体、液体、および超臨界状態の CO₂ 圧入による
砂岩試料の比抵抗変化」第 60 巻 5 号(2007) pp.435-443

③ 永年在籍表彰

平成 20 年度総会において正会員 3 名（大見美智人、小島圭二、服部定育）、賛助会員
1 社（30 年表彰：(株)日本地下探査）をそれぞれ表彰した。

④ 優秀発表賞

平成 20 年度総会において、前年度学術講演会の優秀発表賞として以下を表彰した。

・ 117 回（平成 19 年度秋季）学術講演会

優秀講演賞：辻 健、松島 潤、山田信人、市原 寛、小西千里

優秀ポスター賞：岡崎健治

⑤ 功労者表彰

創立 60 周年記念式典において、永年に亘り本学会の運営発展に特段の功績があった以
下 18 名を表彰した。

朝倉繁明、東 宏幸、稲崎富士、上出好男、大川史郎、大柳雅寒、賀来 学、
加野直巳、楠見晴重、高杉真司、辻本崇史、徳丸哲義、中野 修、羽藤正実、
松岡俊文、村上 裕、横井浩一、渡辺文雄

⑥ 運営功績賞

創立 60 周年記念式典において、本学会の運営発展に特段の功績があった以下の 2 団体、
16 名を表彰した。

・標準化検討委員会

相澤隆生、阿蘇弘生、今野正雄、杉山長志、鈴木敬一、武内俊昭、千田敬二
千葉昭彦、松原由和、三木 茂、吉田武志、世森祐一

・学会の総合的な IT 化

青木直史、後藤忠徳、松島 潤、山根照真

[5] 臨時委員会

(1) 標準化検討委員会

物理探査の普及と標準化を図るため「物理探査適用の手引き」の全面改訂に取り組み、
タイトルを「新版物理探査適用の手引きー土木物理探査マニュアル 2008ー」として創
立 60 周年記念出版物の一つとして仕上げ、平成 20 年度でこの委員会活動を終了とした。

(2) IT 化改革委員会

学会の活性化を図るため、会員・広報委員会と連携し、学会業務の IT 化を推進した。

(3) 創立 60 周年記念事業実行委員会

創立 60 周年記念事業に係る企画立案とその準備、そして平成 20 年 10 月に 3 日間に亘
り記念行事を開催し、計画通り無事終了した。

(4) 公益法人化検討委員会

平成 20 年 12 月 1 日から施行された新公益法人制度に向けて、社団法人である当学会も公益社団法人への申請を来年度の早い時期にすべく検討・準備を進めている。

(5) ニュース委員会

準備を進めてきたニュースレター「物理探査ニュース」を平成 21 年 1 月に創刊号として第 1 号を発刊した。以降、本委員会においては精力的に作業を進め、年 4 回の発刊を目指している。

2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

[1] 通常総会

平成 20 年 5 月 15 日（木）、東京、早稲田大学国際会議場にて開催した。

[2] 理事会

平成 20 年度中に 6 回開催した。（平成 20 年 4 月、6 月、9 月、11 月、平成 21 年 1 月、3 月）

[3] 運営幹事会

平成 20 年度中に 3 回開催した。（平成 20 年 7 月、10 月、平成 21 年 2 月）

[4] 評議員会

平成 20 年度中に 1 回開催した。

開催日 平成 21 年 3 月 6 日（金）

開催場所 東京大学工学部 2 号館

3. 会員の状況

会員の現況(平成 21 年 3 月 31 日現在)

	H21.3 末	H20.3 末	増 減
名誉会員	27	28	1 名減
正会員	1361	1416	55 名減
内学生	66	60	6 名増
賛助会員	138 社 297 口	141 社 299 口	3 社、2 口減

職場班 65 班

以上

II. 平成 20 年度決算報告

数年来、年度収支赤字が続いていた当学会の財政状況も、平成 16 年度から取り組んできた WEB の改革を含めた学会業務の IT 化が実を結び、19 年度、20 年度はほぼ年度収支プラスの状況にまで改善されました。これらは、一重に会員皆様のご協力によるものであります。

また、平成 20 年度に当学会が創立 60 周年を迎えるに当たり、皆様にご寄付をお願いしたところ、皆様から多額のご寄付をいただき、創立 60 周年記念行事を盛大に執り行うことができました。

ここに、改めて、皆様のご支援に心よりお礼を申し上げる次第です。

今後とも、全ての行事に対して可能な限り無駄を省き、管理費についても徹底的な削減を図る等、精力的に財政改革に取り組む所存でおりますので、皆様のなお一層のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。